

第2回

授業づくり講座 授業研究会

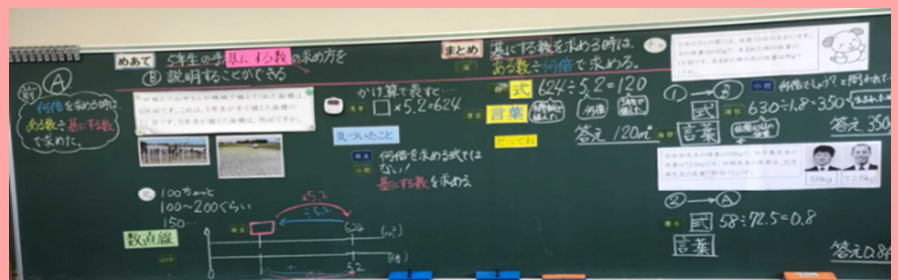
香美市立舟入小学校

第5学年「小数のわり算」比与森 信幸教諭

【本時の授業提案】

7月4日、舟入小学校で授業研究会が開かれました。5月におこなわれた教材研究会の学びを生かし、単元を通して既習内容との違いを意識させることに力を入れて、本時の授業までに数学的な見方・考え方につながるよう指導してきました。

教科書の題材ではなく、児童が主体的に取り組める工夫として、総合的な学習の時間で体験した田植えの面積を比較する題材を扱いました。また、既習の乗法の意味に着目し、数直線を活用しながら、演算決定する過程を説明する活動を通して、統合的に考える力を育むことをねらいとし、提案授業を行いました。



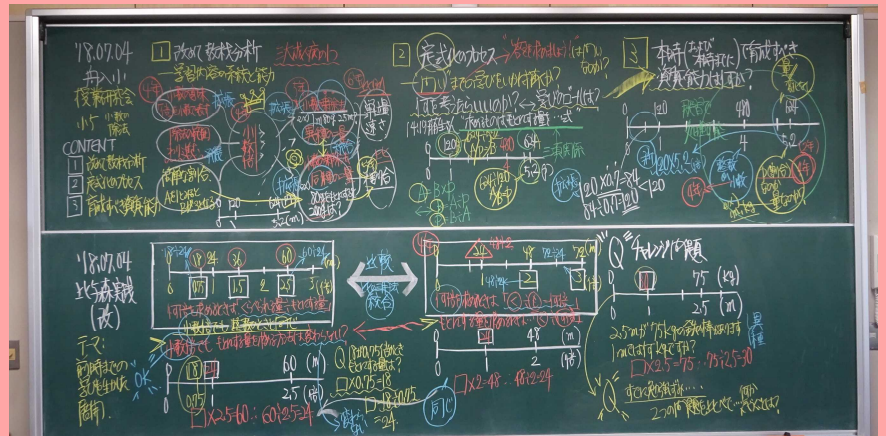
リフレクション



舟入小全教員に加え、野市小・香我美小・田野小・室戸小・野市東小・山田小・香長小（全教員）の7校から参加した先生方と本授業の協議を行いました。専門官が本内容を「算数三大成人病」といわれた指導が難しい内容で、「これまでに担当学年の指導内容しか、考えてこなかった。前学年の指導の重要さに気付かされた。」「教材の研究が大事。」といった声が聞かれました。

学力向上総括専門官より

- ①改めて教材分析・・・学習内容の系統と能力をおさえておく具体的な指導について
- ②定式化のプロセス・・・数の三項関係（ある数を求めるときに残りの2つの数の関係から求める）ことを構造的に学ばせること
- ③本時までには育成すべき資質・能力とは・・・本内容を5年で学習する必要性は、4年の既習を使い、整数から小数へ演算の意味を拡張する時間であること



◆参観者より

- 今までは、指導の系統性など深く考えずに授業をしてきました。その学年で付けなければいけない資質・能力をしっかりと押さえ、上の学年で深く学んでほしいから、次の学年へ思いをこめて、授業をしていくことが大切だと感じました。
- 本単元のための教材研究ではなく、統合・発展を意識し、関連する単元や既習の定着を図っていきたいです。多くを覚えさせるのではなく、少なく教え、自分の力で生かしていく指導が必要であることを教えていただきました。
- 拡張を児童が理解するには時間がかかること、丁寧な指導が必要であることを学びました。
- 舟入小の先生方のチームとして学びを深めている姿に多くのことを学ばせていただきました。

次回の舟入小学校での講座は、**8月20日(月)**
8:45~です！ぜひご参加ください。